Ingrid Fuzjko Hemming

Fuzjko Hemming

フジコ・ヘミング

フジコ・レーベル第一弾!!　待望の全曲ロンドンレコーディングによるニュー・アルバム!!

"Fuzjko"

フジコ

RELEASE: 2009.7.22

¥3.200-(tax in) < *¥3.048-(tax out)*>

株式会社HEI Global Entertainment, Inc.　|　tel. 03.6804.3222 /fax.03.6804.3226

■収録曲■

01.ピアノ・ソナタ第17番　ニ短調　作品31の2≪テンペスト≫　第3楽章　アレグレット（ベートーヴェン）
02.ノクターン　第1番　変ロ短調　作品9の1(ショパン)
03.ラ・カンパネラ　(パガニーニによる大練習曲　第3番　S.141-3)(リスト)
04.春の宵(リストーシューマン)
05.パガニーニによる大練習曲　第6番　S. 141－6(リスト)
06.エチュード　第1番　変イ長調　「エオリアン・ハープ」作品25の1(ショパン)
07.ワルツ　第1番　変ホ長調　作品18　≪華麗なる大円舞曲≫(ショパン)
08.愛の夢　第3番　変イ長調　S. 541の3(リスト)
09.ソナタ　ホ長調　K380(L.23)(スカルラッティ)
10.3つの新しいエチュード　第1番　ヘ短調(ショパン)
11.ノクターン　第2番　変ホ長調　Op. 9－2(ショパン)
12.月の光　「ベルガマスク組曲」より(ドビュッシー)

■フジコ・ヘミング

東京音楽学校(現・東京芸術大学)出身のピアニスト、大月投網子とロシア系スェーデン人画家／建築家ジョスタ・ゲオルギー・ヘミングを両親としてベルリンに生まれる。

5歳の時、帰国。以来母の手ひとつで東京に育ち、5歳から母投網子の手ほどきでピアノを始める。また10歳から、父の友人だったロシア生まれドイツ系ピアニスト、レオニード・クロイツアー氏にも師事。
青山学院高等部在学中、17歳でデビュー・コンサートを果たす。また、東京芸大在学中には、毎日コンクール入賞、文化放送音楽賞など多数受賞。

東京芸大卒業後より、本格的な演奏活動に入り、渡辺暁雄指揮による日本フィルなど、数多くの国内オーケストラと共演。
その後28歳でドイツへ留学。ベルリン音楽学校を優秀な成績で卒業。その後長年にわたりヨーロッパに在住し、演奏家としてのキャリアを積む。

1999年8月25日に発売されたファーストCD『奇蹟のカンパネラ』はこれまでに200万枚を売り上げるという、クラシック界異例の大ヒット。このCDは日本ゴールドディスク大賞、各賞のクラシック・アルバム・オブ・ザ・イヤーを受賞。

また、今販売されているCDは、クラシックの世界で売り上げもトップを独走し続けており、公演活動で多忙を極める中でも、米国同時多発テロ後の被災者救済のために1年間CDの印税を全額寄付を決定や、アフガニスタン難民のためにコンサートの出演料を寄付したりと、人を愛し人を支援し続ける事を忘れないのも彼女の人間味溢れる魅力のひとつで、その優しさは猫や犬をはじめ動物愛護への深い関心と援助を長年続けていることにも現れている。

「スター誕生・フジコ全力疾走の10年　since　1999」　　黒澤シモーネ（エッセイスト）

ある朝、目覚めたら、スターになっていた――。
シネマや小説の世界では起こり得ても、現実にそうなる人など、いるはずがないと思っていた。オーディションやコンクールを受けて、一夜にして脚光を浴びた人は少なからずいる。しかし、幸運の女神が微笑むのは、ほんのわずかな時間だけで、運不運や本人の精進いかんによって、大半の人たちは光の輪の外へと消えてゆく。
しかし、この人は違った。ピアニスト、イングリット・フジコ・ヘミング。
審査員や専門家に選ばれたのではなく、ふつうの人々の耳によって選ばれた彼女は、大ブレイク後のこの10年を、全速力で駆け抜けてきた。カーネギーホール（ニューヨーク）やリスト音楽院（ブダペスト）といった名門ホールの舞台に立ち、ユーリ・シモノフ、タマーシュ・ヴァシャリーら世界の名だたる指揮者や、チェリストのミッシャ・マイスキーらとの共演を果たし、ソロ・コンサートはいつも完売。チケットが取れなかったファンからため息がもれる、という状態が続いている。
1999年2月11日。雪が降り出しそうな寒い夜だった。
NHK教育テレビで放送された「フジコ・あるピアニストの軌跡」。東京・下北沢の自宅で45分の番組を見終わったフジコは、「あんなにたくさんの時間、取材につきあったのに、あっけないな」と思ったという。そのころ、フジコの家からそう遠くない渋谷のNHKには、「あの人に手紙を書きたい」「次のコンサートはいつ？」と、問い合わせが殺到していたにもかかわらず、である。
私がインタビューしたとき、ブレイクのきっかけになった番組について尋ねると、彼女は「あの番組ひとつで、今まで越えられなかった壁を一気に越えることになるなんて、夢にも思いやしなかったわよ」と答えた。それもそうだろう。彼女は留学後に住み続けることになったヨーロッパでも、母の死をきっかけに三十数年ぶりに日本に帰ってきたあとも、自分のピアノをひとりでも多くの人に聴いてほしい一心で、地道に小さな演奏会を重ねてきたのだから。
日本人ピアニストの母と、スウェーデン人建築家の父のもと、ベルリンで生まれたフジコは、ヒトラーが政権を握る直前のドイツから、幼少のころ、父母につれられて日本に来た。母の手ほどきでピアノを始め、10歳からレオニード・クロイツァーに師事。
軍国主義が進む日本で、外国人排斥を恐れた父がスウェーデンに帰国したために、フジコはその後、無国籍となり、東京芸術大学在学中に、日本音楽コンクールで2位に入賞、文化放送音楽賞を受賞した実力を持ちながら、なかなか留学の夢は叶わなかった。赤十字の難民の身分を得てベルリンへ留学できたのは、28歳の終わりのことだった。30代後半にして、ウィーンで巡り合ったバーンスタインに認められ、彼の推薦でリサイタルを開くことになったが、その矢先、風邪の高熱で聴力を失った。失意の中、スウェーデンへ移住。耳の治療をしながらスウェーデン国籍を取り、再び舞い戻ったドイツで音楽教師をした。今も右耳は聴こえないが、4割ほどの聴力を取り戻した左耳を頼りに、音楽教師をしながら、彼女はピアニストとしての活動も続けた。ある世界的指揮者の推薦で、ドイツのラジオ局がフジコの演奏によるリストの「カンパネラ」や「愛の夢」を録音。リスナーに好評で、繰り返し放送されたことは、レコード会社やプロモーターから声をかけられない不遇時代の彼女の大きな支えとなった。彼女が演奏会を開くたび、必ず足を運んでくれるファンが、次には家族や友達を連れてきてくれることも励みになった。
99年のブレイクをきっかけにリリースされたフジコのデビューアルバム「奇蹟のカンパネラ」は、これまでに200万枚を売上げ、その年もっとも売れたCDに贈られる日本ゴールドディスク大賞を、同アルバムや「憂愁のノクターン」などで4度受賞。どちらも、クラシックのアーティストとしては前人未到の記録である。大記録を達成し、ビクターや、ユニバーサルの名門レーベル・デッカから数多くの名盤をリリースしてきた彼女だが、それにとどまるつもりはないらしい。
2008年12月、ビッグ・ニュースが飛び込んできた。ロンドンで新たな録音に挑むという。それも、彼女自身が納得できる音質で、今、彼女がリスナーに届けたい曲を録音するため、自らのCDレーベル「フジコ・レーベル」を立ち上げ、世界に発信するというのだ。アメリカの大物プロデューサーが彼女のピアノと人間性に惚れ込み、タッグを組んでのプロジェクトだとも漏れ伝わってきた。
ロンドンに旅立つ直前のフジコ・ヘミングに心境を聞いた。
「カンパネラは、この10年、毎回コンサートで演奏してきました。熱心に聴いてくださるファンの方々の目と耳に磨かれて、10年前のカンパネラとは比べものにならないほど、
深みを増してきたと言ってくれる人がいます。今までにたくさんCDは売れたから、これ以上賞とかお金を望んだらバチがあたっちゃう。ただ、ときどき、神様が降りてきたとしか言いようのない演奏ができることがある。そんな演奏を世界中の人に聴いてもらえたらうれしいです」
さらなる飛躍をめざすアーティスト精神に、胸を打たれた。進化しつづけるフジコ・ヘミングの新境地を、CDで、ライブで聴かずにはいられない。

株式会社HEI Global Entertainment, .Inc.
Promotion :tel. 03.6804.3222 / fax.03.6804.3226